

特別公開 Featured Exhibit

大陸調査の先駆・大谷探検隊—21世紀の研究から—

Studies on the Ōtani Expeditions in the 21st century

2014年10月7日(火)～11月3日(月・祝)

Tuesday 7 October to Monday 3 November 2014

20世紀初頭、ユーラシアという広大な視野の下に大陸調査を敢行した大谷探検隊。調査終結100周年の今年、大陸への玄関口の一つである横浜で、大谷探検隊とその将来品に関する近年の研究を紹介します。

共催：横浜市教育委員会 後援：龍谷大学 龍谷ミュージアム
監修：片山章雄(東海大学教授)

観覧料 一般200円、小・中学生100円

Admission: ¥200 for adults, ¥100 for primary and junior high school students

会場 2階常設展示室(一部)

Permanent Exhibition Gallery



利用案内 Visitor Information

横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

開館時間 9:30 a.m.～5:00 p.m. (入館は4:30 p.m.まで)

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)
年末年始(12月28日～1月3日) 他

入館料 一般200円、小・中学生100円
※特別展・企画展開催中は料金変更になることがございます。
毎週土曜日は、小・中学生、高校生無料
「障害者手帳」横浜市の「濱ともカード」等をお持ちの方
には、入館料免除の制度がありますのでお尋ね下さい。

12 Nihon Odori, Nakaku, Yokohama,
Japan 231-0021
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

Hours 9:30 a.m.-5:00 p.m.
(Admission until 4:30 p.m.)

Closed Mondays and year-end
New Year's recess
(December 28 to January 3)

Admissions Adults: 200 yen
Children: 100 yen



アクセス

みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口すぐ
JR「関内駅」南口・市営地下鉄「関内駅」1番出口から徒歩約10分
Zero min. walk from Nihon Odori Sta. on the Minato Mirai Line.
10 min. walk from Kannai Sta. on the JR Line or Municipal Subway.

<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>

News from Eurasia

横浜ユーラシア文化館ニュース



目次 Contents

- 2 アートウォッチング
Art Watching
エジプト・フスタート遺跡出土のガラス瓶
Glass Bottle with Cut Decoration from al-Fustāt, Egypt
竹田多麻子 Tamako Takeda
- 5 ギャラリートーク
Gallery Talk
特別公開
「大陸調査の先駆・大谷探検隊」
に寄せて —大谷光瑞と江上波夫—
On the Featured Exhibit "Studies on the Ōtani
Expeditions in the 21st Century"
畠山禎 Tei Hatakeyama

- 6 蔵品紹介—常設展示室から—
The YMEAC Collection: From the Permanent Exhibition
鳥文皿
Plate with Bird Design
福原庸子 Yasuko Fukuhara
- 8 蔵品紹介—新収蔵資料—
The YMEAC Collection: Recent Addition
- 9 展覧会・催し物案内
Exhibitions and Events
- 12 利用案内
Visitor Information

横浜ユーラシア文化館
Yokohama Museum of EurAsian Cultures

no. 21

エジプト・フスタート遺跡 出土のガラス瓶

Glass Bottle with Cut Decoration from al-Fustāt, Egypt

エジプト／10～11世紀／高17.5cm／早稲田大学蔵
Egypt. 10th -11th century. H. 17.5 cm. Owned by Waseda University

エジプトというと、ツタンカーメンの黄金のマスクやピラミッドのような巨大建築に代表される古代エジプトを思い浮かべる方が多いと思いますが、エジプトの名が世界に知られるようになったのは10世紀後半から14世紀の中世イスラームの時代でした。

当時、エジプトで東西海上交易路の一大中心地として繁栄した都市がフスタートです。ビザンツ帝国領にあったエジプトをアラブ・イスラーム軍が征服した直後の642年に建設された、アラブによるエジプト最初の首都でした。フスタートは、現在のカイロ市南部、オールド・カイロ地区に位置するバビロン城の北から東に広がるところにあたり、現在は廃墟となっています。

Speaking of Egypt, many people certainly recall ancient Egypt, for example, the golden mask of Tutankhamen and the huge edifices like the pyramids. But it was the Fatimid, Ayyubid, and Mamluk dynasties during from the second half of the 10th century to the 14th century, that the fame of Egypt came to spread around the world.

In those days, al-Fustāt was a prosperous city, the big center of east - west maritime trade in the Mediterranean world. It is the first Islamic capital constructed by the Muslim army in 642, after they defeated the Byzantines in Egypt. The ruins of al-Fustāt are located in old Cairo, south of the present Cairo.



底部外面
Outside of the Bottom

このガラス瓶は、そのフスタート遺跡で発見されたものです。1978年、早稲田大学調査隊がアムル・モスクの南東で発掘調査を行った際に排水施設の污水穴（ピット）から見つかりました。約3.9メートルという深さの穴から取り出されたにもかかわらず、ガラス瓶は口の一部が欠けただけでほぼ完全な形で残っています。表面は土や水に埋まっていたために虹色の薄い膜で覆われていますが、もとのガラスは無色透明でした。特に、瓶の底には二つの四角形を組み合わせた星形のカット装飾が私たちの目をひきます。バラ水やワインのような飲み物を入れたといわれていますが、液体を通してこれらの装飾は非常に美しかったことでしょう。ガラス瓶を通して、中世イスラーム時代の華やかさが垣間見えます。

This glass bottle shown was discovered in the ruins of al-Fustāt, when a Japanese team of archeologists from Waseda University conducted excavations in the southeast of the Amr mosque in 1978. In spite of having been removed from a hole the depth of about 3.9 meters, it remains in a nearly perfect form except for a missing part of the mouth. Since it was buried in the ground or under water, the surface was covered by a thin rainbow-colored film, but the former glass was colorless and transparent. In particular, on the bottom, there is a cut decoration of two quadrilateral-shaped stars, which is very eye-catching. It is said that rose water or wine was probably poured from it, looking at these decoration through the liquid might have enhanced the pleasure.

We can catch a glimpse of the brightness of the medieval Islamic world through such a bottle.



参考文献

桜井清彦・川床隆夫編『エジプト・イスラーム都市 アル＝フスタート遺跡 発掘調査1978～1985年』早稲田大学出版部、1992年
真道洋子『イスラームのガラス ガラスに見るイスラームの生活と美』中近東文化センター、2002年
横浜ユーラシア文化館編『ユーラシア3000年 海と陸のシルクロード』横浜ユーラシア文化館、2009年



フスタート遺跡 2009年 写真撮影 竹田多麻子
Al-Fustāt Site. Photograph by Tamako Takeda

特別公開「エジプト・フスタート遺跡出土のガラス瓶」 Featured Exhibit "Glass Bottle with Cut Decoration from al-Fustāt, Egypt"

会期 2014年9月2日(火)～9月28日(日)
Tuesday 2 to Sunday 28 September 2014

会場 横浜ユーラシア文化館 2階常設展示室 (一部)

【関連企画】

月イチ講座「エジプト・フスタート遺跡出土のガラス瓶」

長年フスタート遺跡の発掘調査に携わられた真道洋子先生をお迎えして、エジプトのガラスや発掘調査のお話を伺う特別講座です。

講師 真道 洋子 (早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員)

聞き手 竹田 多麻子 (横浜ユーラシア文化館)

日時 2014年9月27日(土) 午後2時～(30分程度)

会場 1階ギャラリー **受講料** 200円

Gallery Talk

ギャラリートーク
畠山禎 Tei Hatakeyama

特別公開

「大陸調査の先駆・大谷探検隊」 に寄せて —大谷光瑞と江上波夫—

On the Featured Exhibit "Studies on the Ōtani Expeditions in the 21st Century"

横浜ユーラシア文化館では、本年10月7日から特別公開「大陸調査の先駆・大谷探検隊—21世紀の研究成果から—」を開催します。(詳細は本誌9頁および12頁参照。)

当館収蔵品の旧蔵者である江上波夫は、1930年代から40年代にかけてモンゴル高原東南部を踏査した人物ですが、江上のおよそ30年前、はるかに大きな規模で、ユーラシア内陸部の探検を敢行したのが大谷探検隊でした。

大谷探検隊の収蔵品は、壁画、布、土製品、木製品、文書断片、植物標本など、実に多様です。何と様々なものがあることか、という驚きは、江上旧蔵資料に通じるものがあります。

大谷探検隊を率いた大谷光瑞は、「旅行教範」に「自己ノ勞力ニテ判定シ能ハザル事物ニ遭遇セバ—(中略)—漫リニ臆断スベカラズ」(第五部270、ルビと濁点は筆者加筆)と記し、資料収集の際は自分の判断で取捨選択せず調査するよう指示しています。その結果、多様な資料が収集され保管されることになり、当時は判断できなかったことが後年明らかになるなど研究の新展開は続き、探検終結から100年たった今でも、研究対象としての魅力は尽きません。

江上も資料収集の際、そのときの知識で取捨選択しませんでした。江上は、大谷光瑞の資料調査に対する姿勢を高く評価しています¹⁾。大陸調査の先駆者である大谷光瑞は、資料調査の方針においても江上の先駆者だったといえます。

本特別公開では、大谷探検隊とその将来品に関する研究の中から、21世紀の新たな成果に焦点を当てます。大谷光瑞の調査方針あってこそこの特別公開です。当館の旧江上コレクションとともに楽しんでください。
(敬称略)

The Yokohama Museum of EurAsian Cultures (YMEAC) is holding a featured exhibit on "Studies on the Ōtani Expeditions in the 21st Century" from October 7 to November 3, 2014.

The Ōtani expeditions began in 1902 and finished in 1914, and their collected items are still considered important for studies of Central Asia.

Kōzui Ōtani, who led these expeditions, commanded his accompanying members to collect all items, even if they could not personally understand them. As a result of this instruction, the Ōtani collection is rich in variety and still holds possibilities for new scholarly findings.

The former Egami collection of the YMEAC is similarly rich in variety. Namio Egami, who collected them, held the same policy as Kōzui Ōtani when collecting artifacts.

The featured exhibit focuses upon the new results from studies on the Ōtani expeditions and its collection in the 21st century. Please enjoy not only this exhibit, but also the former Egami collection.

1) 「対談 大谷探検隊の意義を考える」『龍谷』第44号、1999年。これは上山大峻と江上波夫との対談である。

蔵品紹介—常設展示室から—

福原庸子 Yasuko Fukuhara

ちょう もん さら
鳥文皿

Plate with Bird Design

優れた技術と華麗な装飾で頂点を極めたササン朝の工芸品は、シルクロード交易等によって中央アジアから中国、更には奈良時代の日本にも影響を及ぼしたことが知られています。この銀製皿は、金属の板を裏から叩いて立体的に成形する打出し技法を用い、中央に連珠円文に囲まれた鳥を配していますが、その表現には孔雀の特徴である冠羽、鱗状の羽毛、長い飾り羽が見られます。インド原産の孔雀はおそらく献上品としてペルシアへもたらされたと考えられ、ビザンティンの歴史家テオファネス（818没）が著した『年代記』には、ササン朝のホスローⅡ世の宮殿には数え切れないほどの孔雀、駝鳥、雉などが、そして囲いのある獵苑には大きな獅子や虎がいたことが記されています。古代イラン語期のメディア語形 *paridaiza* は、周囲を壁や堀で囲った場所を意味し、英語 *paradise* の語源はこの語に遡りますが、ペルシアの王侯たちはアケメネス朝以来このような人工的に囲った獵苑を造営し狩りを楽しんでいました。つまり、ササン朝の装飾モチーフとして知られる鳥類や、獅子・猪を射る帝王狩獵文は単なる装飾ではなく、豪華な宮廷生活を映し出していることがわかります。囲まれた空間は神によって秩序が保たれたパラダイスであり、帝王は神々に自らの王権と樂園の守護を祈願しました。

聖なる囲まれた空間は、連珠円文にも象徴されています。古くから縁取りや区画として貨幣、金属器、織物などに使われた珠形の列（連珠文）は、ササン朝において大流行します。そして王朝末期には、神が帝王に授ける加護と王権の輪（光り輝く真珠の環）を連珠円文が象徴するようになります。ササン朝の影響を受けた織物の優品が日本の正倉院や法隆寺に遺されていますが、そこに織り込まれた大粒で眩しいばかりの連珠円文は、内側に描かれた王侯や動植物が加護を受ける聖域であることを示しています。

Sasanian textiles and silverware traveled the Silk Road as gifts and trade-goods, their influence reaching as far as Japan. This small silver plate, shaped and decorated by the hammering techniques of repoussé and chasing, has a pearl roundel with a bird inside, likely a peacock, with a crest, scale-like plumage, and a train. Peacocks were probably brought to Persia as tribute from India. The *Chronographia* by Theophanes (d. 818) records that peacocks were among the innumerable birds seen in the palace of Khosrow II, and that huge live lions and tigers were kept in the walled grounds. The latter refers to the man-made “paradise”—which is derived from the old Persian (Median) word *paridaiza* meaning “walled” and thus protected by divine power—where the royals enjoyed hunting, which, as a symbolic motif, embellished Sasanian silver plates. Sacred enclosure is also represented by the pearl roundel, as seen on this plate, which protects the bird inside. Towards the end of the Sasanian period, the pearl roundel takes on a special significance as the representation of divine protection and empowerment of the king.



イラン／ササン朝（226～651）／径13.0cm 高2.5cm

Iran, Sasanian period (226-651). Diam. 13.0 cm, H. 2.5 cm

The YMEAC Collection: Recent Addition (April to August 2014)

蔵品紹介—新収蔵資料—

2014年4月から8月までにご寄贈いただきました資料をご紹介します。ご寄贈くださいましたみなさま、ご寄贈に当たりご協力を賜りましたみなさまに篤く御礼申し上げます。なお、出版物につきましては、点数が多いため本誌ではご紹介しておりません。整理でき次第、熟覧に供する資料はインターネットの目録に掲載、学習教材として受贈いたしました出版物は、2階展示室内ライブラリーでご利用いただいております。どうぞご活用ください。

※ライブラリーの図書は入れ替えがありますのでご了承ください。

(敬称略)

収蔵番号 YMEAC-14-0001

切手アルバム

点 数 1点

地 域 ブータン

寄贈者 祖父川精治

Stamp Album. Bhutan. Donated by Seiji Sofukawa



収蔵番号 YMEAC-14-0002~0495

高橋コレクション

点 数 494点

地 域 中国、タイ、イラン、日本他

寄贈者 高橋正紘、大輪三紗子、吉田智恵子

Takahashi Collection. Donated by Masahiro Takahashi, Misako Owa, and Chieko Yoshida



帯鉤 (高橋コレクション) Belt Hook, Takahashi Collection
中国 China
戦国時代 4th-3rd century



貨幣 (高橋コレクション) Pot Duang Coins, Takahashi Collection
タイ Thailand
15~19世紀 15th-19th century



カットガラス碗 (高橋コレクション) Cut Glass Bowl, Takahashi Collection
イラン Iran
6世紀 6th century

このほか、学習教材として、更紗の帯 (吉澤あや子)、ミャンマーの竪琴 (清水易子)、ブータンのコイン (祖父川精治)、バリの骨製装飾品等 (高橋正紘、大輪三紗子、吉田智恵子)、インドの燭台 (菱谷龍平) をご寄贈いただきました。学習教材は体験学習や学芸員実習に活用させていただきます。

() 内は寄贈者、敬称略

展覧会・催し物案内 Exhibitions and Events

展覧会 Exhibitions

企画展 Special Exhibition

古代エジプト ファラオと民の歴史 —東海大学古代エジプトコレクション—

Pharaohs and People in Ancient Egypt —Tokai University Collection—

2015年1月31日 (土) ~ 4月5日 (日)

Saturday 31 January to Sunday 5 April 2015

古代エジプトの歴史の表舞台に立つファラオ (王) たちには、彼らを支える数多くの民の存在がありました。本展示では東海大学が所蔵する古代エジプトコレクションを通してファラオのもとで暮らした人々の生活を探ります。また、東海大学の文化財修復保存の取り組みを紹介するほか、大学生たちによるワークショップも開催します。

観覧料 一般300円、小・中学生150円

Admission: ¥300 for adults, ¥150 for primary and junior high school students

会 場 3階企画展示室

Thematic Exhibition Gallery



ホルス神の眼を捧げるヒト
東海大学蔵

特別公開 Featured Exhibit

エジプト・フスタート遺跡出土のガラス瓶

Glass Bottle with Cut Decoration from al-Fustāt, Egypt

2014年9月2日 (火) ~ 9月28日 (日)

Tuesday 2 to Sunday 28 September 2014

10世紀後半から14世紀までエジプトの東西海上交易の中心地として繁栄したフスタート。この遺跡の発掘調査で見つかったガラス瓶を特別公開します。

観覧料 一般200円、小・中学生100円

Admission: ¥200 for adults, ¥100 for primary and junior high school students

会 場 2階常設展示室 (一部)

Permanent Exhibition Gallery



カット装飾ガラス瓶
早稲田大学蔵

特別公開 Featured Exhibit

大陸調査の先駆・大谷探検隊 —21世紀の研究から—

Studies on the Otani Expeditions in the 21st century

2014年10月7日 (火) ~ 11月3日 (月・祝)

Tuesday 7 October to Monday 3 November 2014

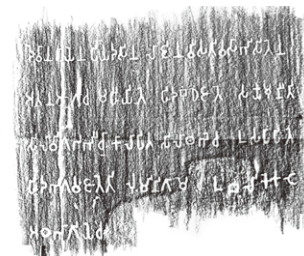
100年前の収集品は美術品としても研究資料としても魅力満載。大谷探検隊将来品研究の今世紀における新展開をご紹介します。

観覧料 一般200円、小・中学生100円

Admission: ¥200 for adults, ¥100 for primary and junior high school students

会 場 2階常設展示室 (一部)

Permanent Exhibition Gallery



アショーカ王碑拓本
長野 徳正寺蔵

特別公開 Featured Exhibit

自鎚庁至烏斯蔵程站輿図

"Map of the Routes from Luting to Tibet"

2014年12月9日(火)～23日(火)

Tuesday 9 to Tuesday 23 December 2014

中国四川省からチベットへ至る清朝末期のルートマップ。年末恒例特別公開。

観覧料 一般200円、小・中学生100円

Admission: ¥200 for adults, ¥100 for primary and junior high school students

会場 2階常設展示室(一部)

Permanent Exhibition Gallery



講座 Lectures

月イチ講座

Lectures (in Japanese)

学芸員が語る。月に一度気軽に聴けてタメになる30分。

2014年

9月27日(土)

エジプト・フスタート遺跡出土のガラス瓶

講師 真道洋子(早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員)

聞き手 竹田多麻子(当館学芸員)

長年フスタート遺跡の発掘調査に携わられた真道洋子先生をお迎えする特別講座。公開中のエジプト・フスタート遺跡出土のガラス瓶(早稲田大学蔵)を中心に、エジプトのガラスや発掘調査のお話を伺います。

10月11日(土)

館蔵ガラス資料Ⅲーカットガラス碗に迫るー

講師 竹田多麻子

11月15日(土)

『スーホの白い馬』の世界Ⅰーモンゴルの人々と言語ー

講師 島山禎

12月13日(土)

仏教美術の魅力Ⅰ

講師 福原庸子

時間 14:00から30分程度

会場 1階ギャラリー

定員 30名(先着順)

受講料 各回200円

お申し込み不要。聴講された方は、講座後、常設展を無料で観覧いただけます。また、6回聴講された方には、オリジナルグッズをプレゼントいたします。

2015年1月～3月の月イチ講座は横浜都市発展記念館の担当です。こちらにもぜひお出でください。詳細はホームページでどうぞ!



その他催し物 Events

ゲルに集まれ!ー『スーホの白い馬』の世界へー

Welcome to the Mongolian Ger!

2015年3月7日(土)～3月15日(日)

Saturday 7 to Sunday 15 March 2015

モンゴルの伝統的な家「ゲル」が中庭に出現!組立て・解体にはどなたでもご参加いただけるほか、民族衣装の試着体験も。お申し込み不要。参加ご希望の方は直接会場へお越しください。

組立て	3/7(土) 10:00から(小雨決行)
解体	3/15(日) 16:30から
ゲル内部公開	3/7(土) 組立て終了後(13:00を予定)～17:00 3/8(日)、3/10(火)～3/14(土) 9:30～17:00 3/15(日) 9:30～16:30 ※3/9(月・休館日)はゲルもお休みです。



横浜ユーラシア文化館・横浜都市発展記念館

開館祭

2015年3月14日(土)、15日(日)

3月15日の開館記念日にちなみ、この2日間に入館無料。楽しい企画をご用意してお待ちしています。

※詳細は決まり次第ウェブサイトでお知らせします。
www.eurasia.city.yokohama.jp/



祭のフィナーレはゲルの解体。



イベント限定デザインの缶バッジを作ませんか?

横浜ユーラシア文化館では夏まつりや開館祭などのイベントの時に、その日限定のデザインで缶バッジを作れます!

1回につき50円。子どもだけでなく大人にも大人気!!

当館キャラクターのこぶちゃんもいろいろな姿で登場しています。

今回は来年3月の開館祭。みんなで集めてみよう。

